



平成28年度 日本工学会 公開シンポジウム
「技術革新への戦略」
今後の研究開発の戦略 2030年、2050年に向けて

平成27年6月3日 於 東京理科大学森戸記念館

講師 只野金一 慶應義塾大学名誉教授(平成25年3月 理工学部 定年退職)
公益財団法人 乙卯(いつう)研究所・研究顧問
平成24～27年度 公益社団法人・有機合成化学協会・副会長

本日の主なる話題

- 1・有機合成化学協会の紹介と現状
- 2・我が国の有機合成化学の将来像と協会の役割



公益社団法人有機合成化学協会のご紹介

The Society of Synthetic Organic Chemistry, Japan (SSOCJ)

有機合成化学は持続可能な社会の発展にとって重要な学理です。有機合成化学者には、健康、材料、食糧、エネルギー、環境などの広い分野の技術課題を解決することが求められています。有機合成化学協会は、産・官・学の研究者、技術者が集い、情報の交換と議論による切磋琢磨を通じた学術・技術の発展を期して1942年(昭和17年)に創立されました。

現在は有機合成化学に止まらず、その関連分野をも専門とする約4,900名の会員によって活発な活動が行なわれています。

歴代会長



初代：真島利行



2 石川一郎



3 黒田泰造



4 牧 鋭夫



5 柴田勝太郎



6 林 茂助



7 藤木経明



8 石村幸四郎



9 青山跡治郎



10 永井芳男



11 川崎京市



12 安東新午



13 折戸 勇



14 梅沢純夫



15 星野孝平



16 斯波忠夫



17 秋吉三郎



18 神原 周



19 星野敏雄



20 穴戸圭一



21 加藤辨三郎



22 岩倉義男



23 阿部一男



24 石井義郎



25 太田暢人



26 亀谷哲治



27 大塚時雄



28 野崎 一



29 竹西忠男



30 向山光昭



31 岸田有吉



32 森 謙治



33 浦 康一



34 野依良治



35 甲斐 學



36 村井眞二



37 平岡哲夫



38 中井 武



39 迫田良三



40 福山 透



41 伊関克彦



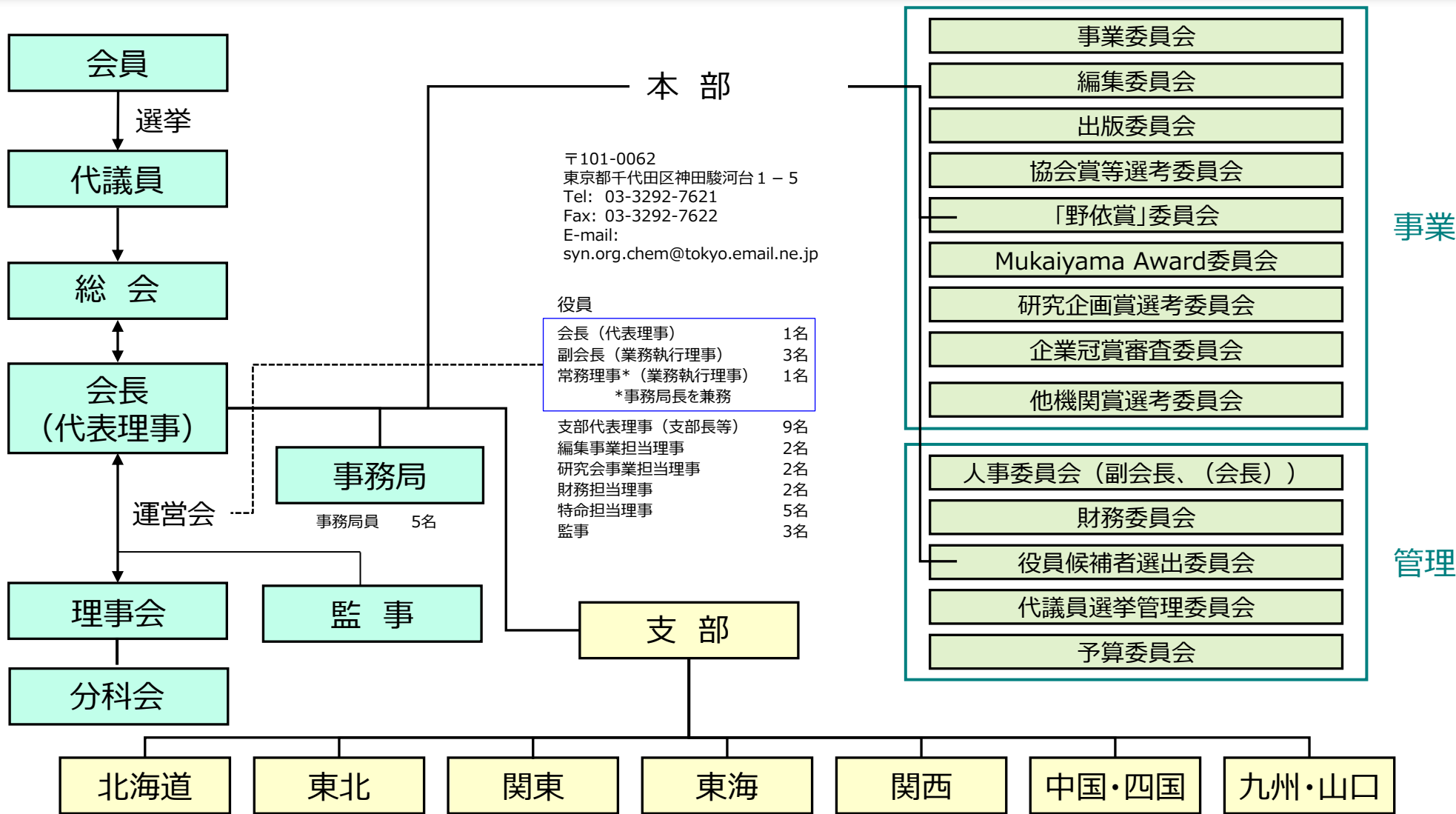
42 鈴木啓介



43 佐藤幸藏



組織





事業の概要 (1)

編集出版事業

- ▶ 有機合成化学協会誌（月刊誌；約6,000部／月で発行）
 - 昭和18年創刊。有機化学分野における国内唯一の総合論文誌。電子版も刊行。
- ▶ 単行本の編集・出版（随時刊行）

研究会事業（本部・支部）

- ▶ 研究発表会・講演会
 - 有機合成シンポジウム（本部主催；年2回開催）
 - その他のシンポジウム（支部主催；合計21）
 - 有機合成化学セミナー（支部持ち回り2泊3日のセミナー）
 - その他、本部／支部ごとに懇談会を多数開催
- ▶ 講習会（教育・研修プログラム）
 - 本部主催有機合成化学講習会（年2回開催）
 - 関西支部主催有機合成セミナー（年2回開催）
- ▶ 見学会・海外交流・親睦
 - 会員企業訪問（見学会）
 - 海外視察団の派遣（27年度は未実施）
 - ゆうごう会（シニア懇談会）



本部主催有機合成化学シンポジウム



シンポジウムのポスターセッション

研究会の参加者数（平成27年度）

延べ参加人数	一般	学生
本部主催事業	541	151
支部主催事業	986	2,676
小計	1,527	2,827
合計	4,354	

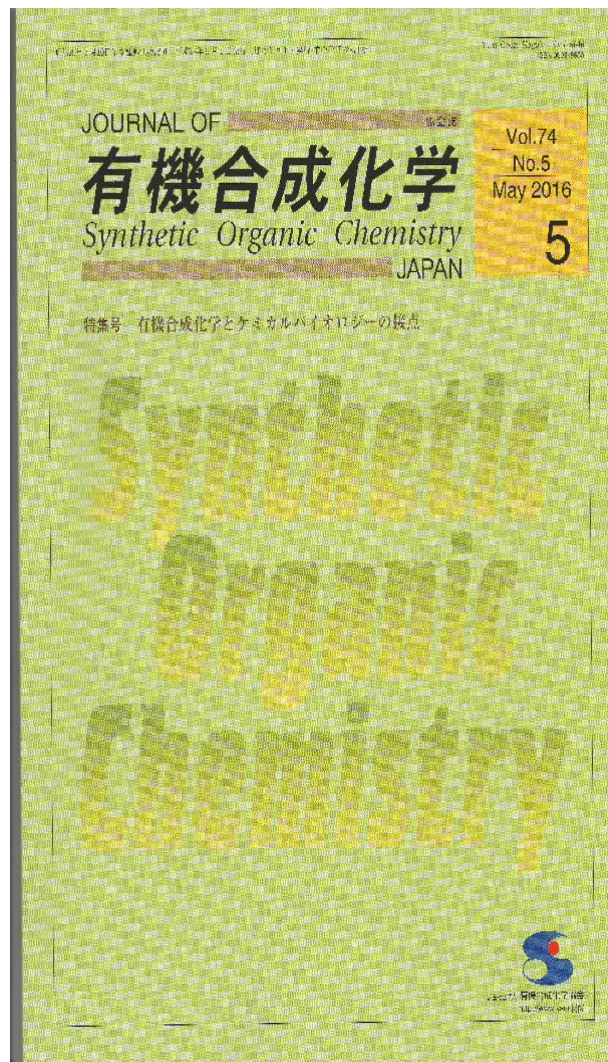


有機合成化学協会誌

原著論文である**一次情報の提供ではなく**、
研究グループの研究業績を纏めた「**総合論文**」、および特定の研究課題に関する国内外の研究業績を纏めた「**総説**」を主体とする学会誌

毎月発刊 2016年で74巻

会員には無料配布





事業の概要 (2)

表彰事業 (採択件数)

- 有機合成化学協会賞 (学術・技術各2) ・奨励賞 (5) ・特別賞 (1)
- Mukaiyama Award (国内1 ; 海外1)
- Lectureship Award (海外1)
- 高砂香料国際賞「野依賞」 (1)
- 有機合成化学協会企業冠賞 (5件以内)
- 支部表彰
- 有機合成化学協会研究企画賞 (約30 ; 若手会員向け研究助成事業)

法人運営に係わる行事

- 支部キャラバン
支部活性化を目的として会長が各支部を訪問し、支部幹部との情報交換・講演を行う
- 総会、理事会、編集委員会、事業委員会、支部幹事会等

新規な行事の検討 (例)

- 個人・法人会員のため、会員向け研究会等の共益事業の充実
- 少人数制の講習会、討論会等



平成24年度各賞受賞者



Mukaiyama Award 2011



財 務

平成27年度決算の概要（公益事業比率：89.6%）

科 目	経常収益	科 目	経常費用
会費収入	72,780,255	労務費関連費用 <small>給料、アルバイト 退職給付・福利厚生</small>	42,042,721
特定資産運用益	855,349	運営経費 <small>会議、交通、通信、什器備品、リース 水道光熱、賃借料、事務委託</small>	15,611,022
編集出版事業収益	15,895,823	編集出版事業費用	27,438,083
研究会事業収益	36,280,684	研究会事業費用	33,475,529
表彰事業収益	4,350,000	表彰事業費用	10,417,837
受取寄付金（表彰関連）	6,955,784	支払寄付金（共催分担金）	325,000
雑収益(含懇親会参加料収益)	317,487	雑費(含懇親会費)	5,314,298
収益合計	137,435,382	費用合計	134,624,490

会費収益の推移

西暦年度	1995	2000	2005	2010	2015
会費収益（千円）	84,536	84,210	78,013	75,358	72,780



有機合成化学の果たしてきた役割 (1)

- ➡ **有用な有機化合物の創製への基礎研究、および実用的供給のための応用研究**
高分子、電子光学材料等をはじめとする「日常生活を支える機能性物質」の創製
医薬、農薬、食品、洗剤等をはじめとする「健康維持に必須な生活基幹物質」の創製
化粧品、装飾品等をはじめとする「生活に潤いを与える補助的役割の物質」の創製 等

- ➡ **有用な有機化合物の創製への基礎研究、および実用的供給のための応用研究**
主として有機化合物より構成される、様々な物質の化学合成法の開発、効率化
我が国の国公立および私立の大学・大学院（主に理学、工学、薬学、農学系の学部
および研究科）、理化学研究所および産業技術総合研究所等の官立研究機関における
基礎および応用に関する学術研究の公表の機会（シンポジウム、研究会、講演会）の提供、およ
び研究者間の交流の場の提供 等



有機合成化学の果たしてきた役割 (2)

有機合成化学および関連学術領域から選出された、日本人ノーベル賞受賞者

有機合成化学分野

- 2000年 ノーベル化学賞受賞 白川英樹博士 導電性ポリマーの発見と開拓
- 2001年 ノーベル化学賞受賞 野依良治博士 不斉合成のための触媒分子の開発
- 2010年 ノーベル化学賞受賞 鈴木 章博士 パラジウム触媒によるクロスカップリング
- 2010年 ノーベル化学賞受賞 根岸英一博士 パラジウム触媒によるクロスカップリング

天然物化学分野

- 2008年 ノーベル化学賞受賞 下村 脩博士 クラゲから緑色蛍光タンパク質を発見
- 2015年 ノーベル生理学医学賞受賞 大村 智博士 寄生虫感染症の治療薬の発見と開発



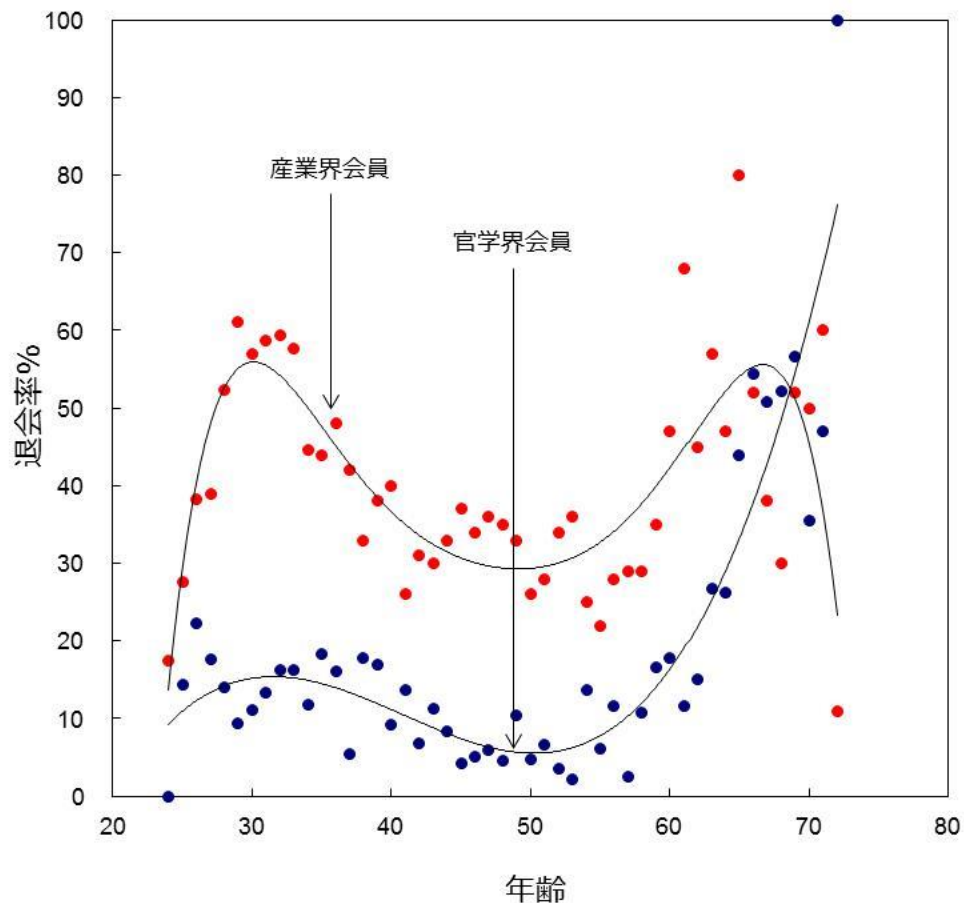
課題

有機合成化学協会の社会的価値をみつめる

- 学術・産業技術の変遷や成熟度の推移に対応できているか（緊急課題）
- グローバル化（特にアジア）への対応をどのようにアプローチするか（長期課題）

事業の改廃を慎重に検討し、果敢に実行する

- 財政改革の基本原理
- 会員メリットの見える化
 - 退会抑止、会員増加 ⇒ 世代交代
⇒ 財政の安定化への連鎖を生む
- 運営は原則、会費で賄う
- 会の価値を維持し、更なる向上を図る
- 賞のステータスを堅持する
- 若手研究者の支援（表彰事業の活用）

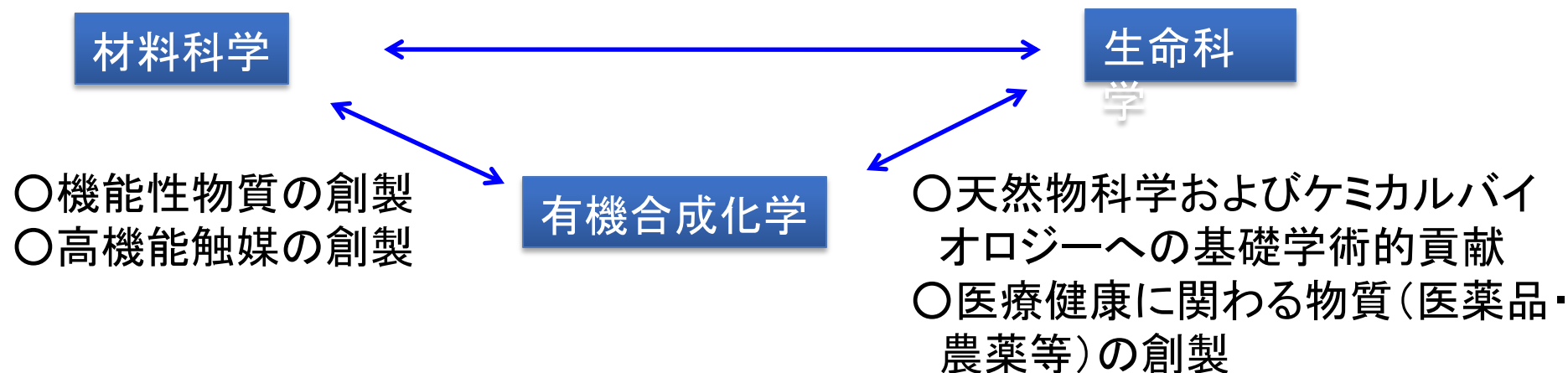


会員の年齢と退会率の相関



まとめ：有機合成化学協会に求められる近未来の展望

いつの時代も、有用な有機化合物の合成に従事する次世代の定常的な育成を支援することが、有機合成化学協会に求められてる最も重要な使命



*産官学のこれまで以上の連携
若手研究者の継続的な育成と支援*

ご清聴、有り難うございました